

店のお客さんに、タータンチェックのウール生地をいただいた。アウトレットというのだが、素人の目にはなんの遜色もない。きっと、わずかに織りむらでもあるのだろう。

90センチ幅のかなり長い生地だったので、さっそく友人のマロミさんと美佐子さんに声かけをして、3人でスカートを造ろうということになった。マロミさんは、若いころ洋裁を習い、頼まれ物などをこなしていたので、彼女に指導してもらうことにした。

3人の定休日が運良く重なる日をえらび、わたしたちはマロミさんに教わって寸法をとり、型紙をおこし、裁断、しつけ、ダーツ、ファスナー、本縫い、裏生地つけ、纏りと、予想以上の行程数を、ていねいにこなした。なんども集まっては、午後から夕方おそくまで励み、さらにお茶の時間も、宿題も忘れなかった。出来上がったら、スカートをはいて、どこかにランチに行こうという計画だけは早々と決まっていたが、毎週集まれるわけではないし、けっきょく10ヶ月もかかってしまった。マロミさんはロング、美佐子さんはミニ、わたしはバイヤスでマキシと、3人がそれぞれ異なるデザインを選んだので、教えるほうもたいへんだったと思う。

やがて、その待ちに待ったランチの日がやってきた。10ヶ月の間に、少々変化したウエストサイズもなんのその、達成感という思いがけないオマケを道づれに、韓国料理店でにぎやかにその講座をしめくくった。